

令和3年度 男女共同参画に関する県民意識調査結果

[ダイジェスト版]

I 調査概要

1 調査目的

静岡県男女共同参画基本計画に基づく施策の検証・評価及び今後の施策推進の基礎資料とするため、平成13年度、同16年度、同17年度、同18年度、同21年度、同23年度、同25年度、同27年度、同29年度及び令和元年度の調査に引き続き、令和3年度における静岡県民の男女共同参画に関する意識調査を実施した。

2 調査内容

- 1) 社会における制度・慣行について
- 2) 男女共同参画に関する教育・学習について
- 3) パートナー間の暴力やセクシュアル・ハラスメントについて
- 4) 男女が共に子育てや介護等に主体的に関わることができる環境について
- 5) 意思決定の過程への女性の参画について
- 6) 男女が共に能力を発揮できる就業環境について
- 7) 地域社会の一員としての活動について
- 8) 実践的な取組の推進について
- 9) 性的マイノリティ（LGBTなどの性的少数者）について
- 10) その他の事項について

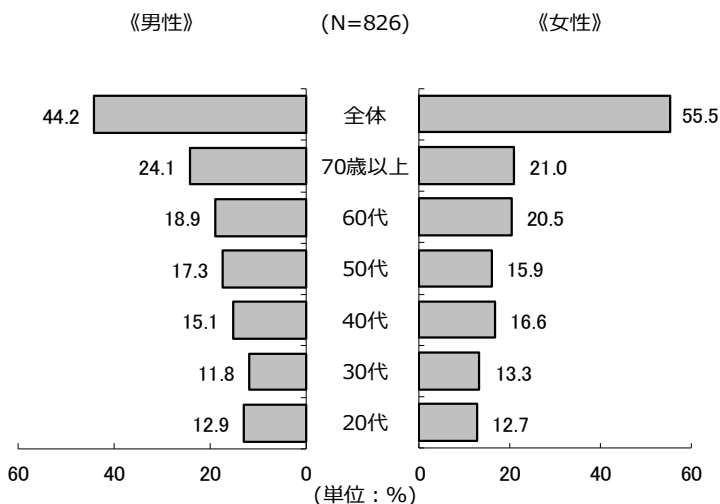
3 調査実施概要

- 1) 調査地域 静岡県全域
- 2) 調査対象 県内在住の満20歳以上の男女2,000人
- 3) 抽出方法 層化二段無作為抽出
- 4) 調査方法 郵送アンケート調査
- 5) 調査時期 令和3年5月31日～6月18日
- 6) 調査機関 株式会社東京商工リサーチ静岡支店
- 7) 回収状況

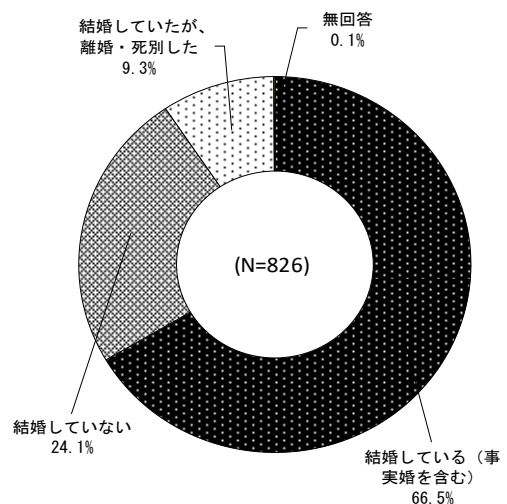
| | | |
|-------|--------|----------|
| 発送数 | 2,000人 | (100.0%) |
| 回収数 | 826人 | (41.3%) |
| 有効回収率 | 826人 | (41.3%) |

II 回答者の属性

【性・年代】

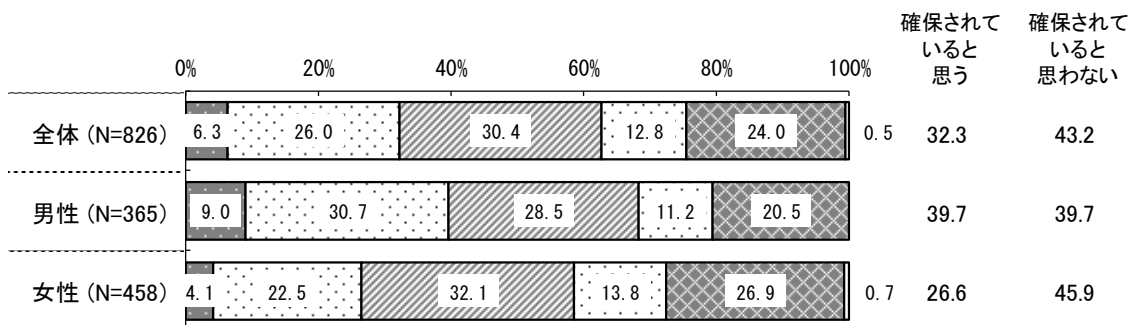


【婚姻】



Q1. 本県において、男女が性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる機会が確保されていると思いますか。

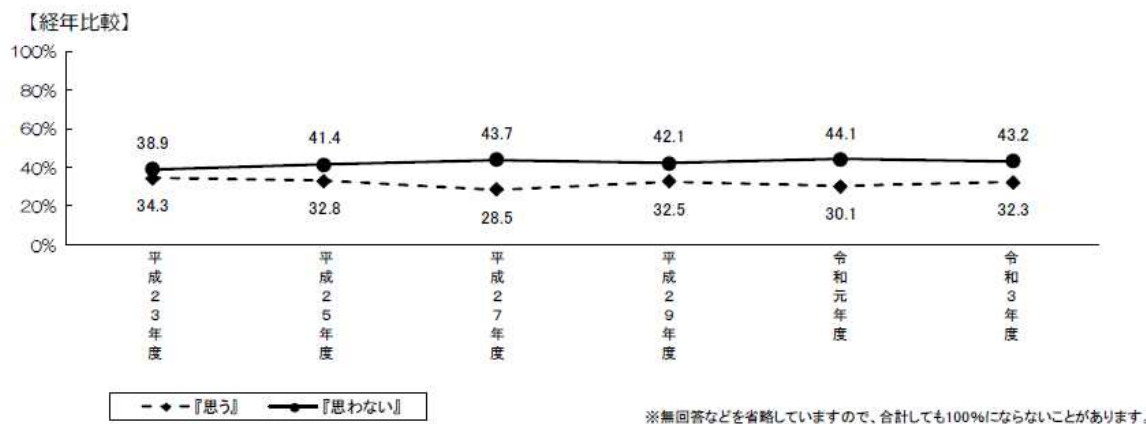
【静岡県における男女共同参画の機会の確保】



■ 思う □ どちらかといえばそう思う
□ どちらかといえばそう思わない □ 思わない
■ わからない □ 無回答

◆ 男女が性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる機会が確保されていると思う人の割合が全体的に増加した。

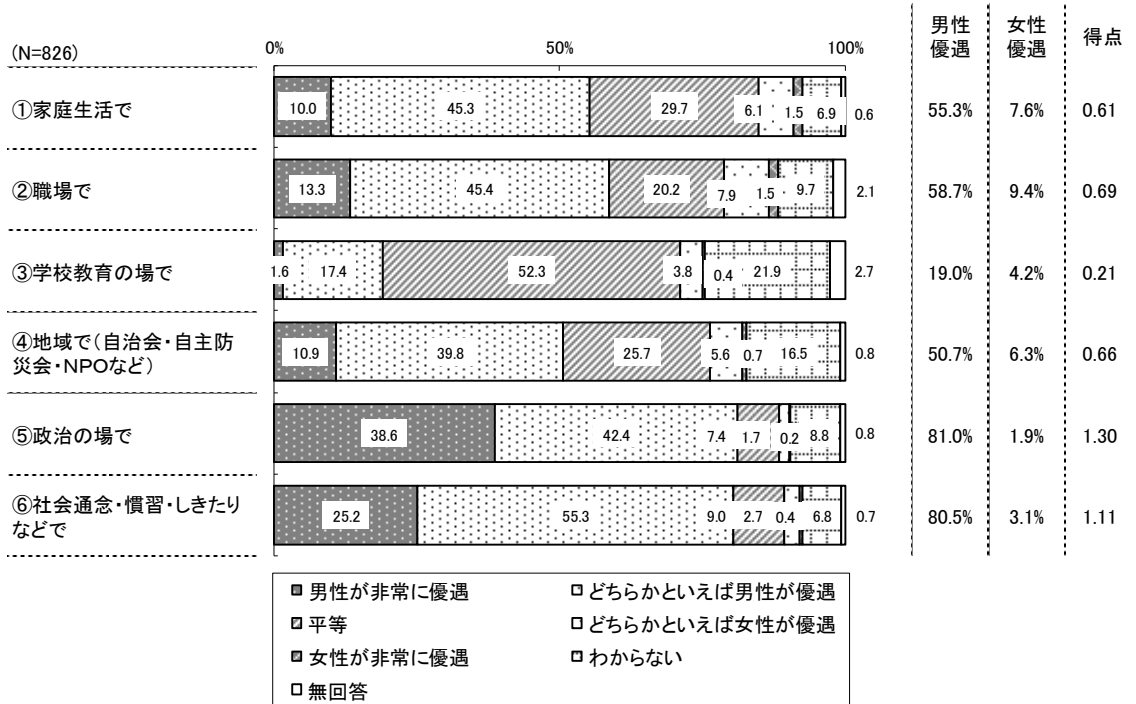
全体：32.3% (R1 30.1%) 男性：39.7% (R1 35.4%) 女性：26.6% (R1 25.7%)



※『思う』(『思う』+『どちらかといえばそう思う』)、『思わない』(『思わない』+『どちらかといえばそう思わない』)

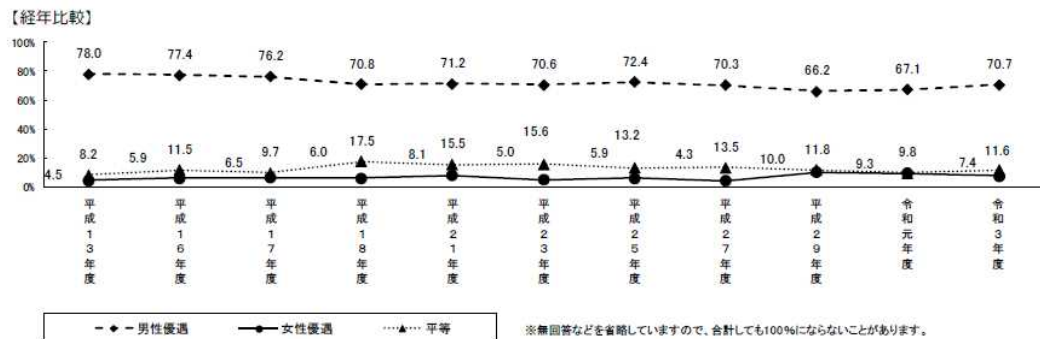
| | 調査数 | 思う | どちらかといえば そう思う | どちらかといえば そう思わない | 思わない | わからない | 無回答 |
|--------|-----|------|------------------|--------------------|-------|-------|------|
| 平成23年度 | 577 | 8.1% | 26.2% | 26.9% | 12.0% | 25.3% | 1.6% |
| 平成25年度 | 793 | 6.9% | 25.9% | 27.2% | 14.2% | 23.7% | 2.0% |
| 平成27年度 | 899 | 7.7% | 20.8% | 29.5% | 14.2% | 26.9% | 0.9% |
| 平成29年度 | 782 | 5.4% | 27.1% | 28.5% | 13.6% | 25.3% | 0.1% |
| 令和元年度 | 744 | 4.6% | 25.5% | 28.1% | 16.0% | 25.3% | 0.5% |
| 令和3年度 | 826 | 6.3% | 26.0% | 30.4% | 12.8% | 24.0% | 0.5% |

Q2. あなたは、次の分野で男女が平等であると思いますか。



◆ 各分野における男女平等感は、「学校教育の場」では平等感が高いが、それ以外の分野では、男性優遇と感じる人が多い。

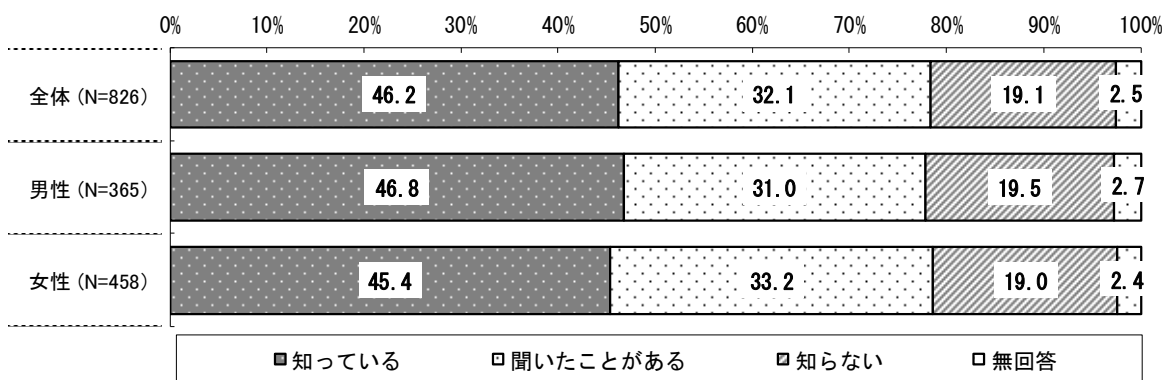
◆ 経年変化



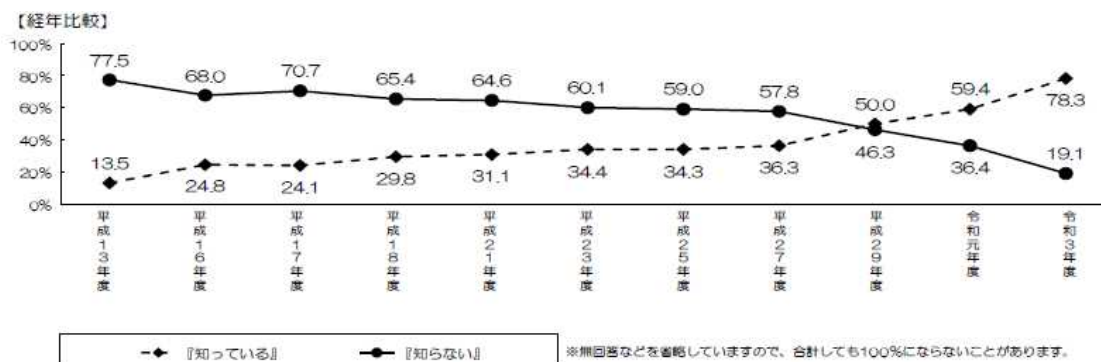
※『男性優遇』（「男性が非常に優遇されている」＋「どちらかといえば男性が優遇されている」）、『女性優遇』（「女性が非常に優遇されている」＋「どちらかといえば女性が優遇されている」）

| | 調査数 | 男性が非常に優遇されている | どちらかといえば男性が優遇されている | 平等 | どちらかといえば女性が優遇されている | 女性が非常に優遇されている | わからない | 無回答 |
|--------|-------|---------------|--------------------|-------|--------------------|---------------|-------|------|
| 平成13年度 | 1,133 | 10.7% | 67.3% | 8.2% | 4.0% | 0.5% | 5.8% | 3.4% |
| 平成16年度 | 800 | 6.9% | 70.5% | 11.5% | 5.6% | 0.3% | 4.5% | 0.8% |
| 平成17年度 | 836 | 6.5% | 69.7% | 9.7% | 5.9% | 0.6% | 6.5% | 1.2% |
| 平成18年度 | 570 | 7.5% | 63.3% | 17.5% | 5.6% | 0.4% | 5.1% | 0.5% |
| 平成21年度 | 653 | 7.8% | 63.4% | 15.5% | 7.5% | 0.6% | 4.4% | 0.8% |
| 平成23年度 | 577 | 6.1% | 64.5% | 15.6% | 4.3% | 0.7% | 8.1% | 0.7% |
| 平成25年度 | 793 | 7.2% | 65.2% | 13.2% | 5.0% | 0.9% | 7.4% | 1.0% |
| 平成27年度 | 899 | 7.1% | 63.2% | 13.5% | 3.7% | 0.6% | 11.3% | 0.7% |
| 平成29年度 | 782 | 5.5% | 60.7% | 11.8% | 9.0% | 1.0% | 11.6% | 0.4% |
| 令和元年度 | 744 | 7.3% | 59.8% | 9.8% | 8.1% | 1.2% | 12.5% | 1.3% |
| 令和3年度 | 826 | 10.3% | 60.4% | 11.6% | 6.2% | 1.2% | 10.0% | 0.2% |

Q3.-1 「ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）」という言葉を知っていますか。

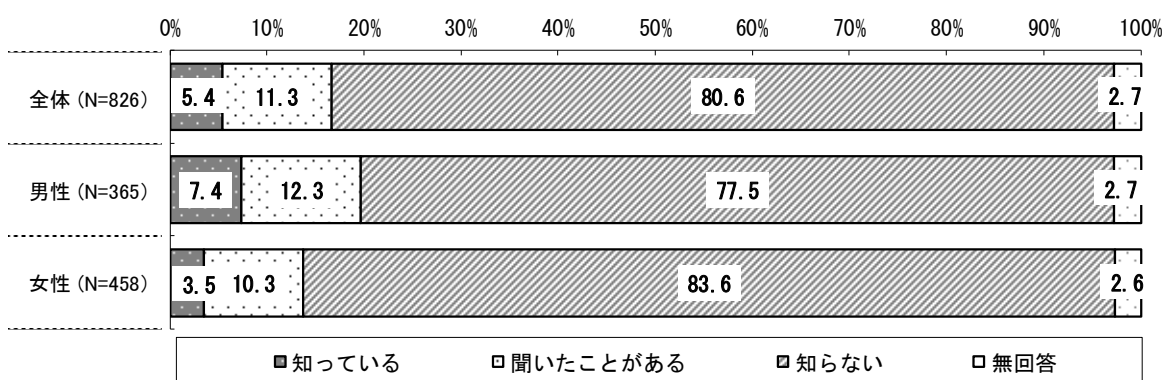


◆ 「知っている」 + 「聞いたことがある」は約8割、前回調査から20ポイント近く増加
 全体：78.3% (R1 59.4%) 男性：77.8% (R1 54.4%) 女性：78.6% (R1 63.9%)



※『知っている』（「知っている」 + 「聞いたことがある」）

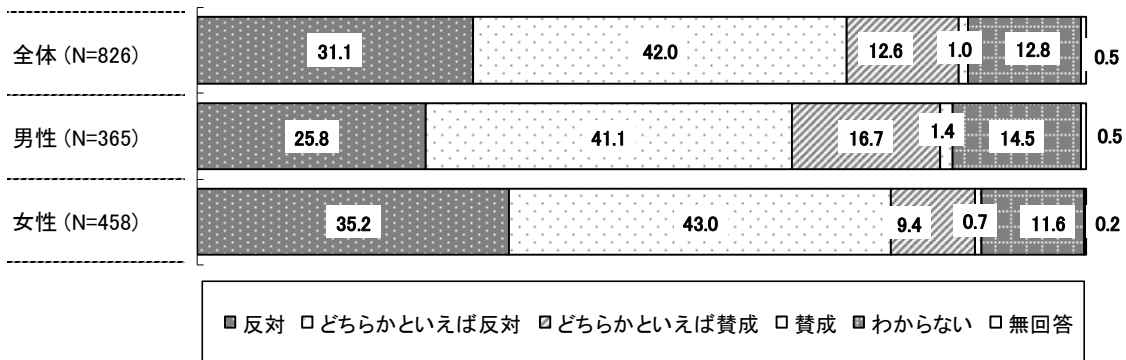
Q3.-2 「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」という言葉を知っていますか。



◆ 「知っている」 + 「聞いたことがある」は2割弱
 全体：16.7% 男性：19.7% 女性：13.8%

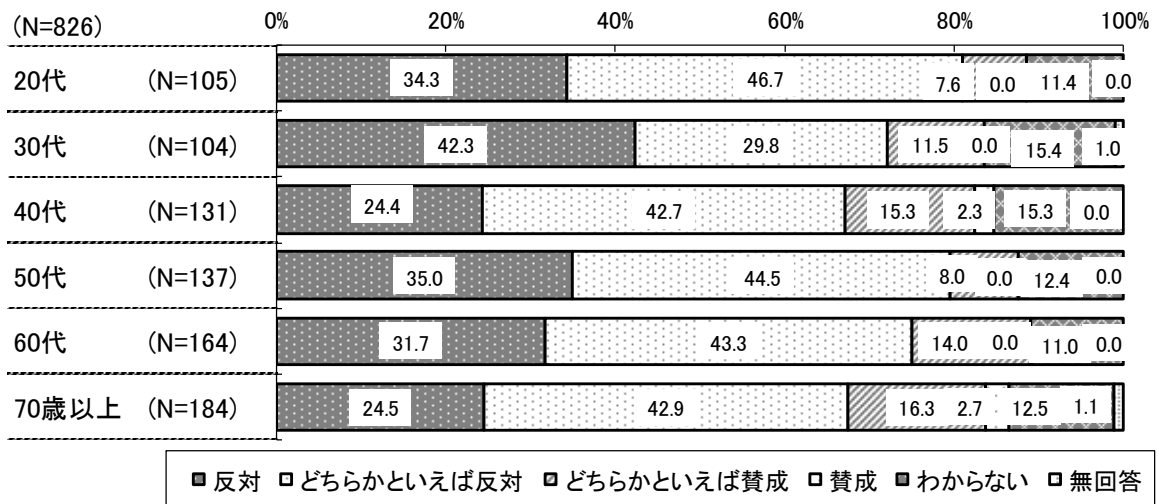
Q4.「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」というような男女の役割を固定的に考えることについて、どのように思いますか。

【男女の役割を固定的に考えることについて】



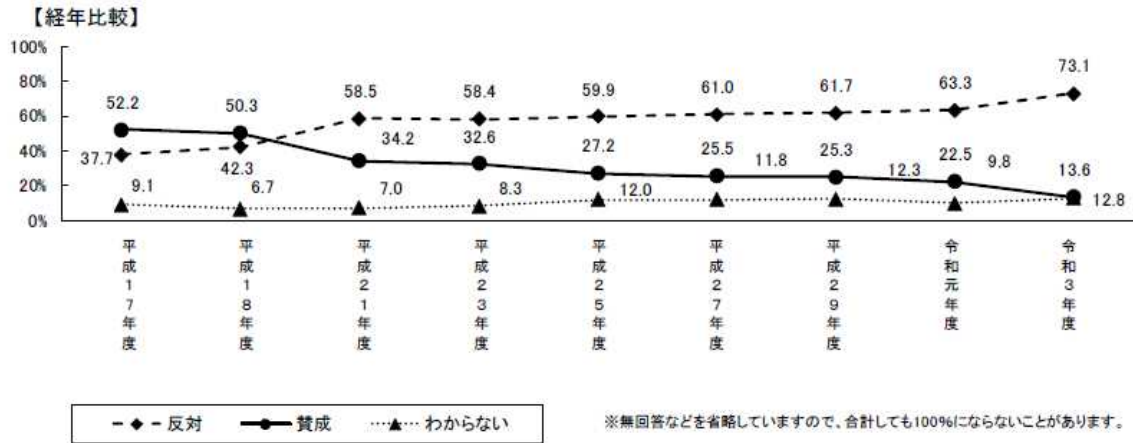
◆ 全体的に反対と思う人の割合が増加傾向

全体 : 73.1% (R1 63.3%) 男性 : 66.9% (R1 59.1%) 女性 : 78.2% (R1 67.4%)



◆ 男女の役割を固定的に考えることについて、反対と思う人の割合は、20代、30代及び50代で高い。

◆ 経年比較



※『反対』（「反対」＋「どちらかといえば反対」）、『賛成』（「賛成」＋「どちらかといえば賛成」）

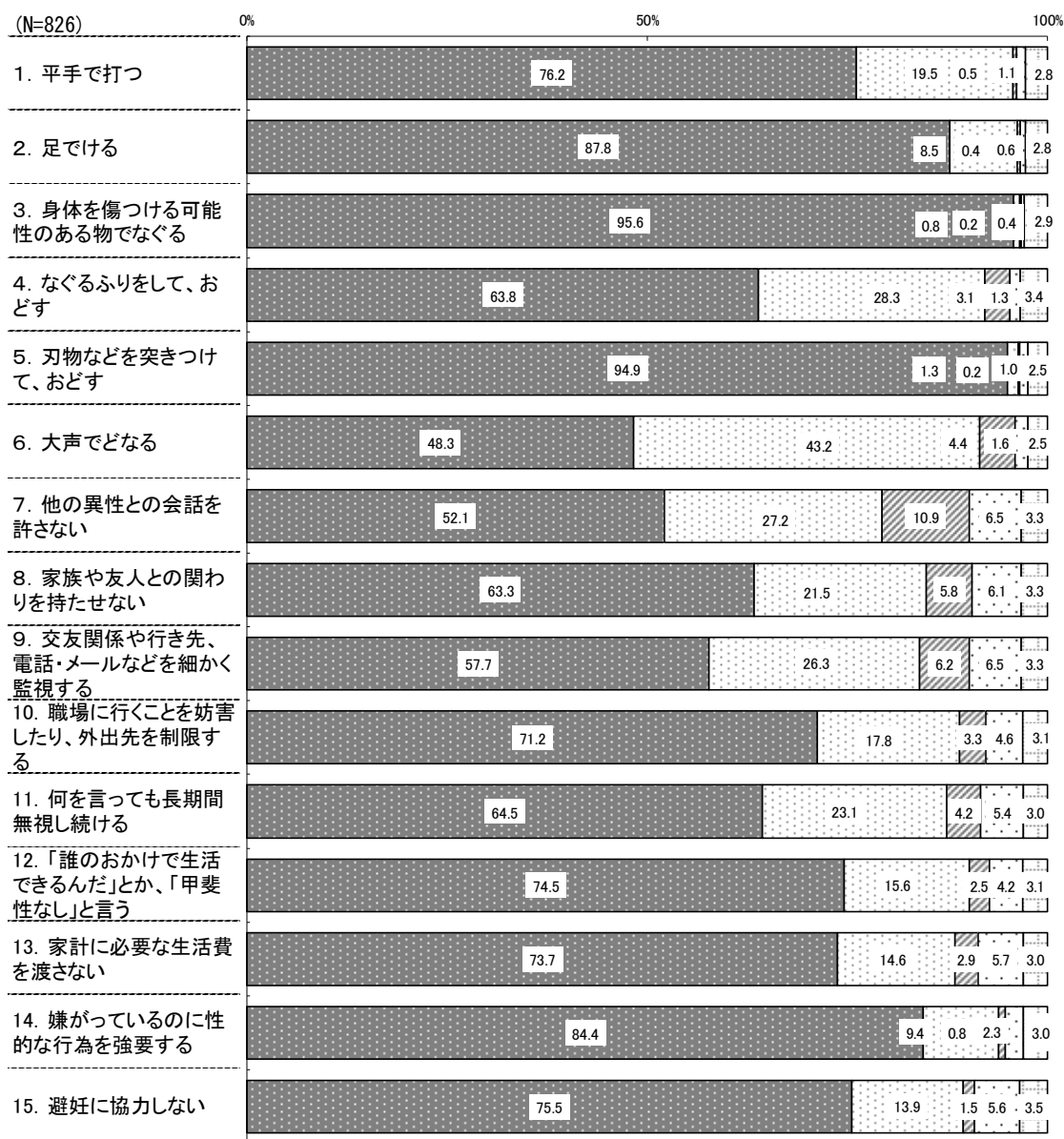
| | 調査数 | 同感しないほう | 同感するほう | どちらともいえない | わからない | 無回答 |
|--------|-------|---------|--------|-----------|-------|------|
| 平成13年度 | 1,133 | 40.6% | 19.9% | 34.2% | 0.7% | 4.6% |
| 平成16年度 | 800 | 37.9% | 17.9% | 40.9% | 1.0% | 2.4% |

| | 調査数 | 反対 | どちらかといえば反対 | どちらかといえば賛成 | 賛成 | わからない | 無回答 |
|--------|-----|-------|------------|------------|------|-------|------|
| 平成17年度 | 836 | 13.5% | 24.2% | 43.2% | 9.0% | 9.1% | 1.1% |
| 平成18年度 | 570 | 18.1% | 24.2% | 41.4% | 8.9% | 6.7% | 0.7% |
| 平成21年度 | 653 | 21.3% | 37.2% | 27.3% | 6.9% | 7.0% | 0.3% |
| 平成23年度 | 577 | 21.7% | 36.7% | 27.2% | 5.4% | 8.3% | 0.7% |
| 平成25年度 | 793 | 22.1% | 37.8% | 23.0% | 4.2% | 12.0% | 1.0% |
| 平成27年度 | 899 | 23.1% | 37.9% | 21.5% | 4.0% | 11.8% | 1.7% |
| 平成29年度 | 782 | 24.0% | 37.7% | 22.1% | 3.2% | 12.3% | 0.6% |
| 令和元年度 | 744 | 27.3% | 36.0% | 20.2% | 2.3% | 9.8% | 4.4% |
| 令和3年度 | 826 | 31.1% | 42.0% | 12.6% | 1.0% | 12.8% | 0.5% |

※平成13年度、16年度の選択肢は「同感しないほう」、「同感するほう」、「どちらともいえない」、「わからない」となっています。

「同感しないほう」を『反対』、「同感するほう」を『賛成』として経年比較をしています。

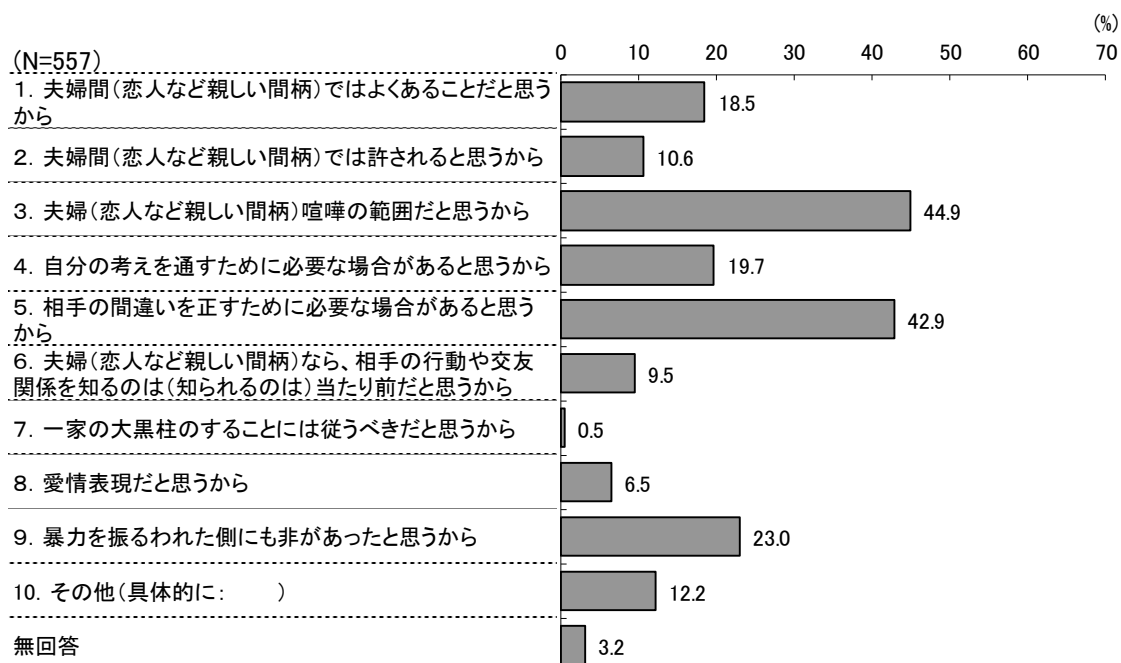
Q5. あなたは、次のようなことが夫妻・恋人など親しい間柄にある男女間で行われた場合、それを暴力だと思えますか。①～⑮のそれぞれについて、「1」から「4」のうちあなたの考えに近い番号をお選びください。なお、ここでの「夫婦」には、婚姻届を出していない事実婚や別居中の夫婦も含まれます。



- どのような場合でも暴力にあたると思う
- 暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う
- 暴力にあたるとは思わない
- その他
- 無回答

◆ 「他の異性との会話を許さない」といった、交友関係における行為については、「暴力」にあたらないと考える人の割合が比較的高い。

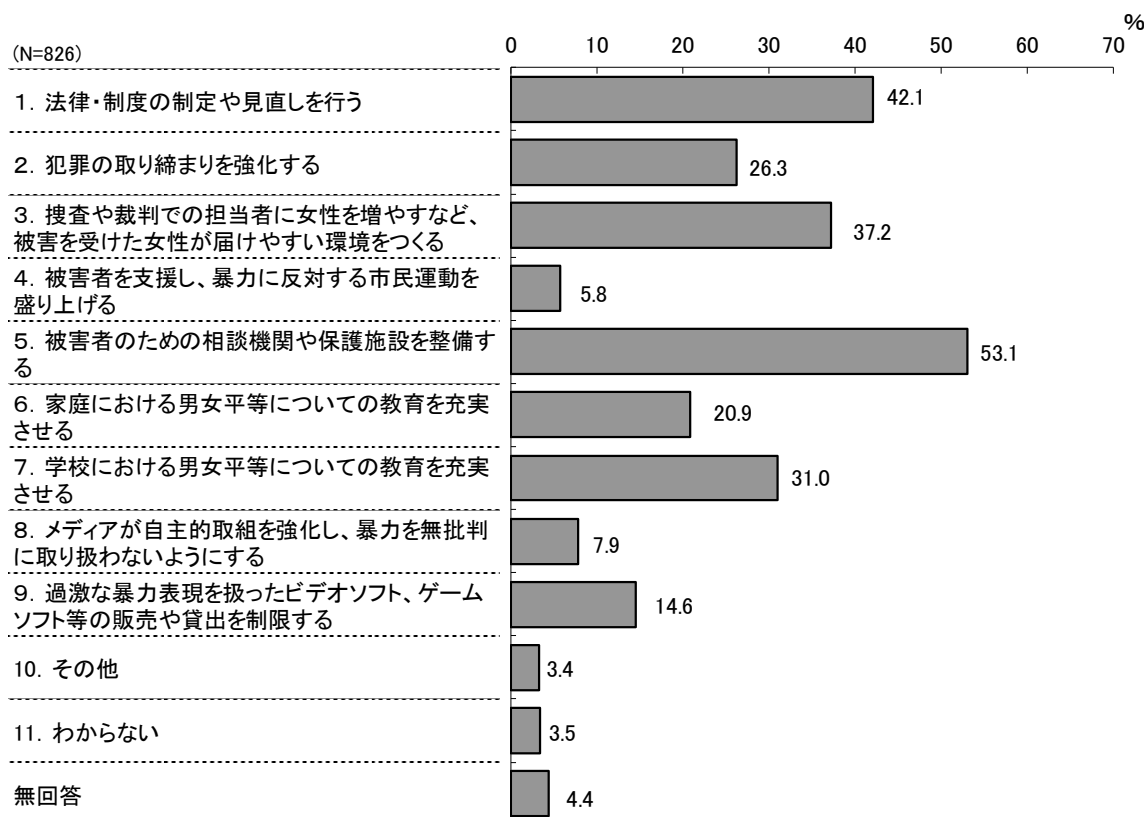
Q6. Q5の①から⑮のうち1つでも「2（暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う）」、「3（暴力にあたるとは思わない）」と答えた方にお聞きします。そのような行為が「暴力にあたる場合でも、そうでない場合もあると思う」、「暴力にあたるとは思わない」と思ったのはなぜですか。（あてはまるもの全てに○）あてはまる番号すべてをお選びください。



◆ 「夫婦（恋人など新しい間柄）喧嘩の範囲だと思うから」と「相手の間違いを正すために必要な場合があると思うから」という理由が多い。

Q7.「夫や妻・恋人など親しい間柄にある男女間の暴力」(ドメスティック・バイオレンス)をなくすためには、どうしたらよいとお考えになりますか。

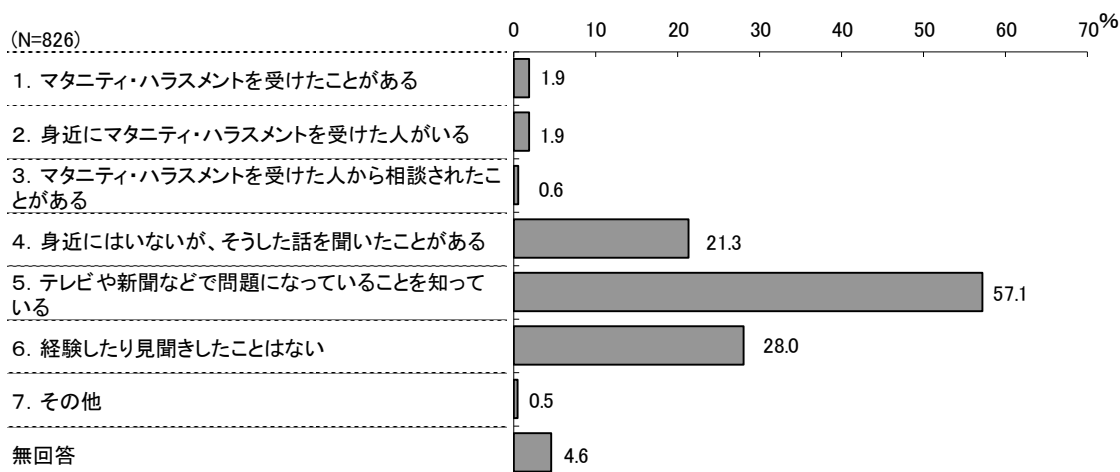
【ドメスティック・バイオレンスをなくすために重要なこと】



◆ ドメスティック・バイオレンスをなくすためには『被害者保護の環境整備』や『法律・制度の見直し』を望む声が多い。

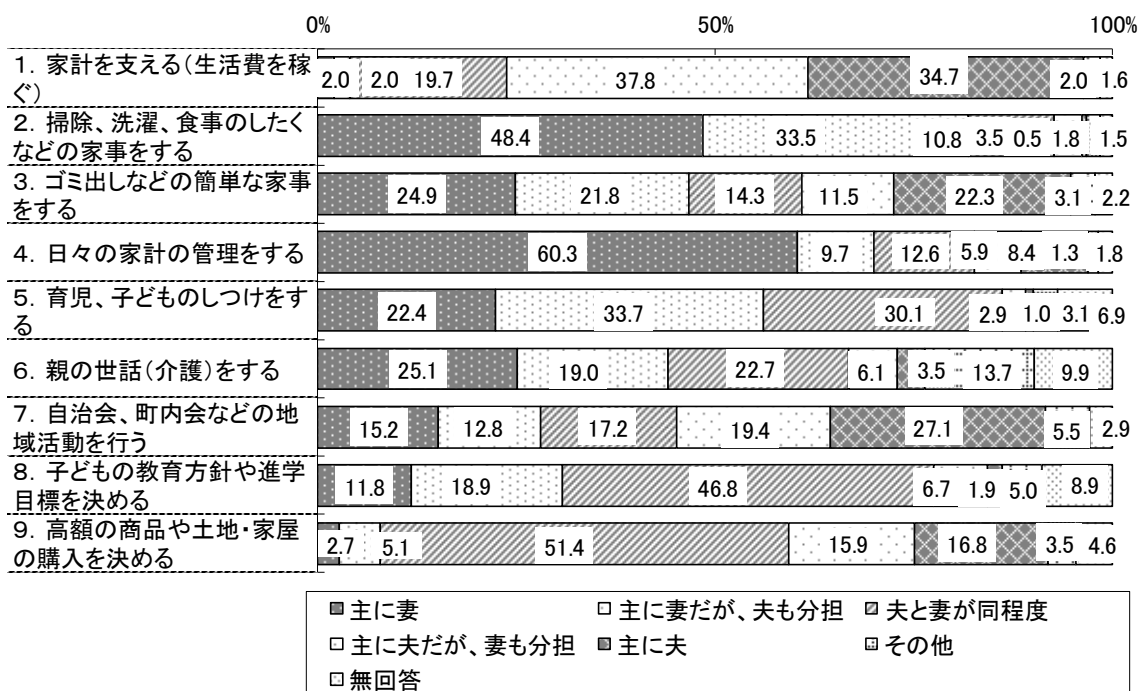
◇ 過去1年間にドメスティック・バイオレンスを受けたことのある人の割合は3.1% (R1 4.0%)

Q8. 過去1年間に、マタニティ・ハラスメント（妊娠・出産・育児等に関する嫌がらせ）について経験したり見聞きしたことがありますか。（あてはまるもの全てに○）



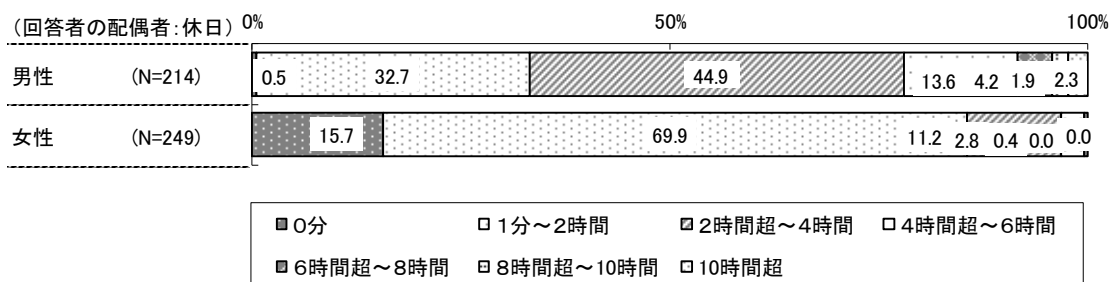
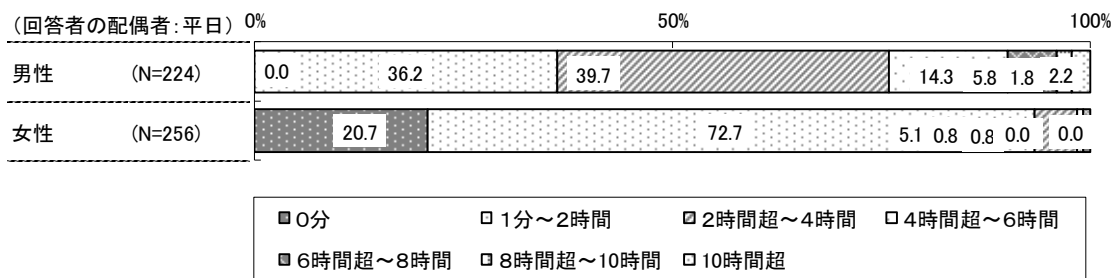
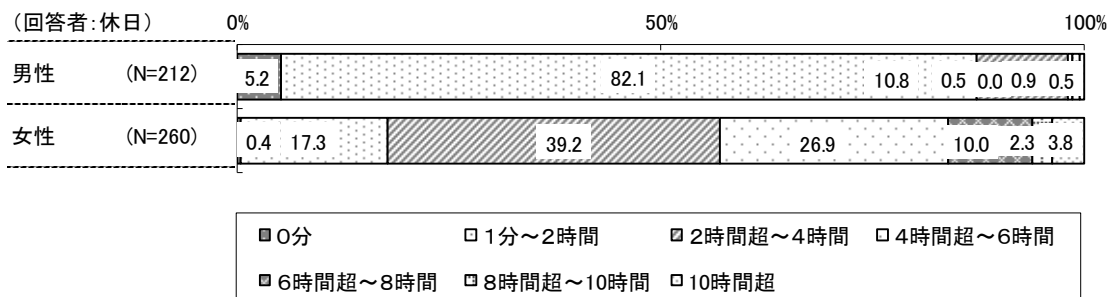
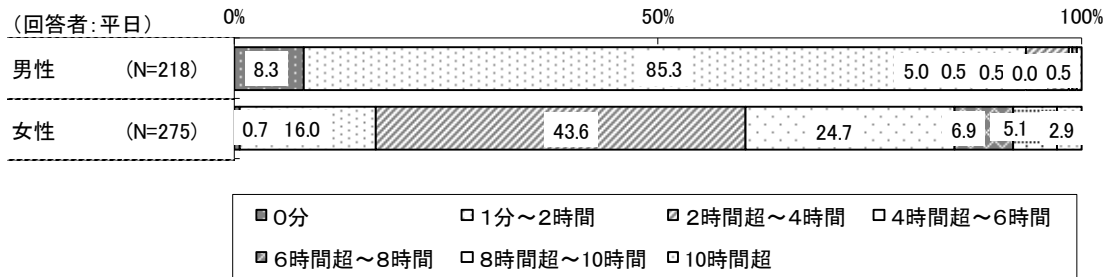
◆ マタハラを「受けたことがある」人は全体的に少ないが、「テレビや新聞などで問題となっていることを知っている」は6割弱と認知度は高い。

Q9. 現在配偶者（事実婚を含む）のいる方に伺います。あなたのご家庭では、次にあげる家庭での役割（掃除、洗濯、食事の支度などの家事）を、主にどなたが担っていますか。



◆ 家庭での「家事」、「育児」、「介護」の担い手の主体は、依然として「女性」である。

Q10. あなたと配偶者（事実婚・パートナー含む）の家事について伺います。あなたと配偶者は、それぞれ1日の中で、家事を何時間くらいしていますか。平日と休日に分けてお答えください。

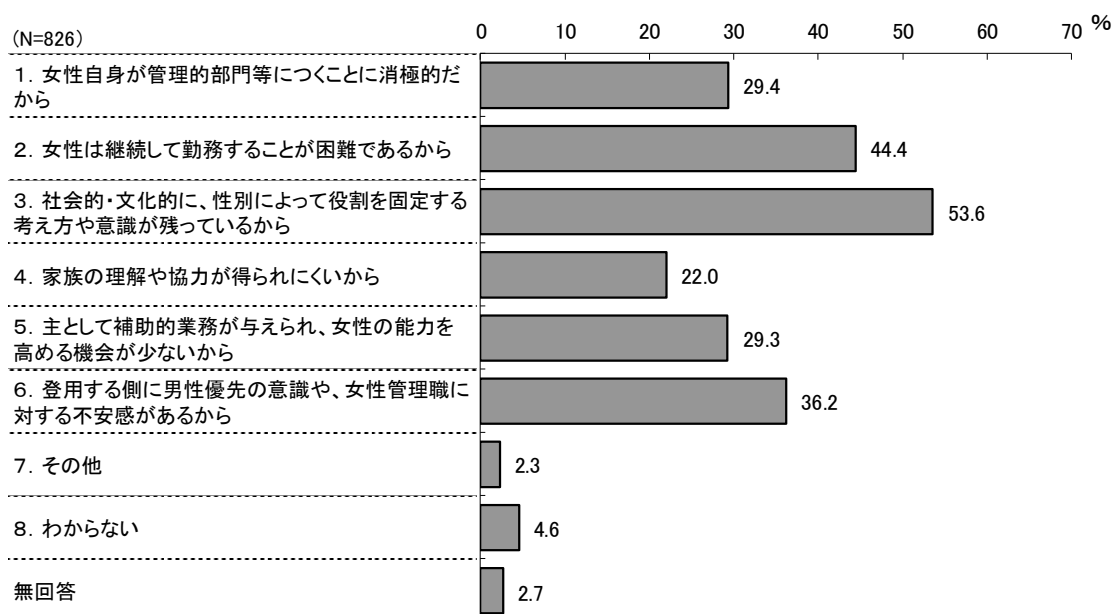


- ◆ 男性（回答者）は、平日は「1分～2時間」が8割、休日も同様に8割となっている。女性（回答者の配偶者）は、平日は「2時間超～4時間」の割合が7割弱となっており、女性の家事負担が大きくなっている。
- ◆ 男性の1日当たりの家事平均時間は、平日1.11時間、休日1.49時間となっている。女性の1日当たりの家事平均時間は、平日4.47時間、休日4.61時間となっており、男性の家事時間の約4倍となっている。

Q11. 現状では、意思決定を行う管理的部門や指導的地位への女性登用がまだまだ少ない状況にあります。

あなたは、その理由としてどのようなものがあると考えますか。

【管理的部門や指導的地位への女性登用が少ない理由】

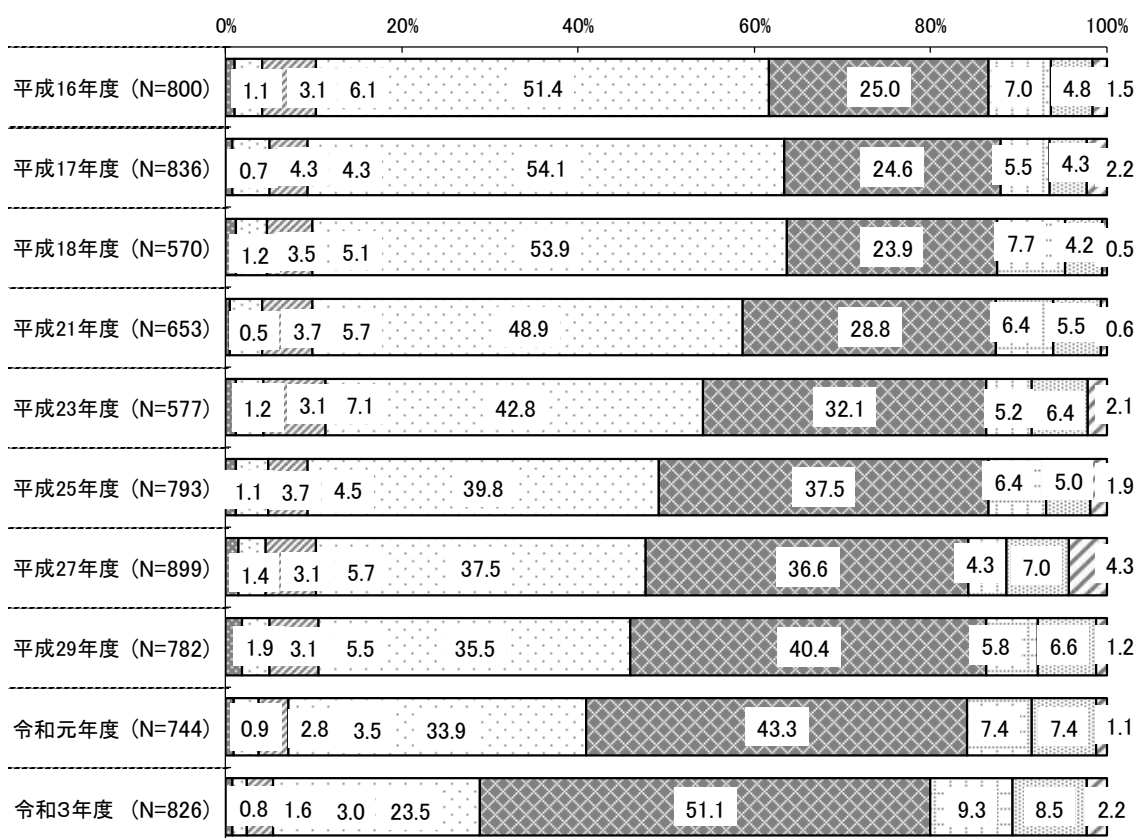


◆ 管理部門や指導的地位への女性登用が少ない理由として『社会的・文化的に、性別によって役割を固定する考え方や意識が残っているから』、『女性は継続して勤務することが困難であるから』と考える人が多い。

◇ 意思決定の場に女性の参画が増えるほうがよいと考える人（「男性を上回るほど増えるほうがよい」、「男女半々になるくらいまで増えるほうがよい」、「男女半々まではいかなくても、今より増えるほうがよい」）の割合は89.2%（R1 89.8%）

Q12. 一般的に女性が職業を持つことについて、どう考えますか。

【女性が職業を持つことについて】

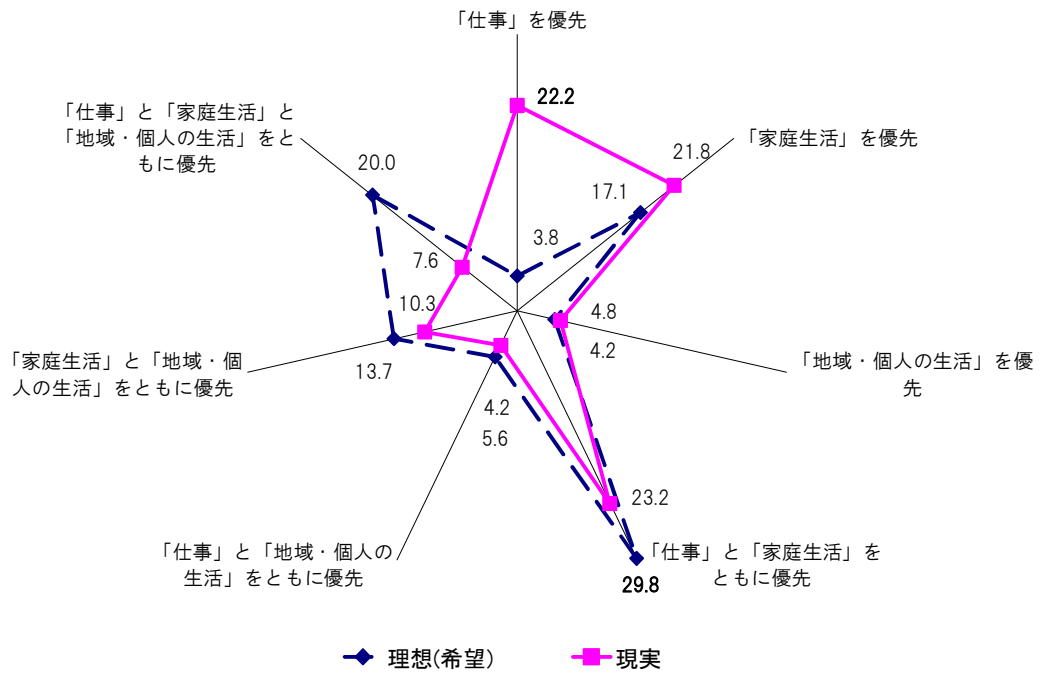


- 女性には職業を持たないほうがよい
- 結婚するまでは職業を持つほうがよい
- 子どもができるまでは職業を持つほうがよい
- 子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つほうがよい
- ずっと職業を続けるほうがよい
- その他
- わからない
- 無回答

◆ 女性が職業を持つことについて、「ずっと職業を続けるほうがよい」と考える人が増加傾向にあり、51.1%(R1 43.3%) の人は、続けるほうがよいと考えている。

Q13. 生活の中での、「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味・付き合い）の優先度について、あなたの理想・現実に最も近いものはどれですか。

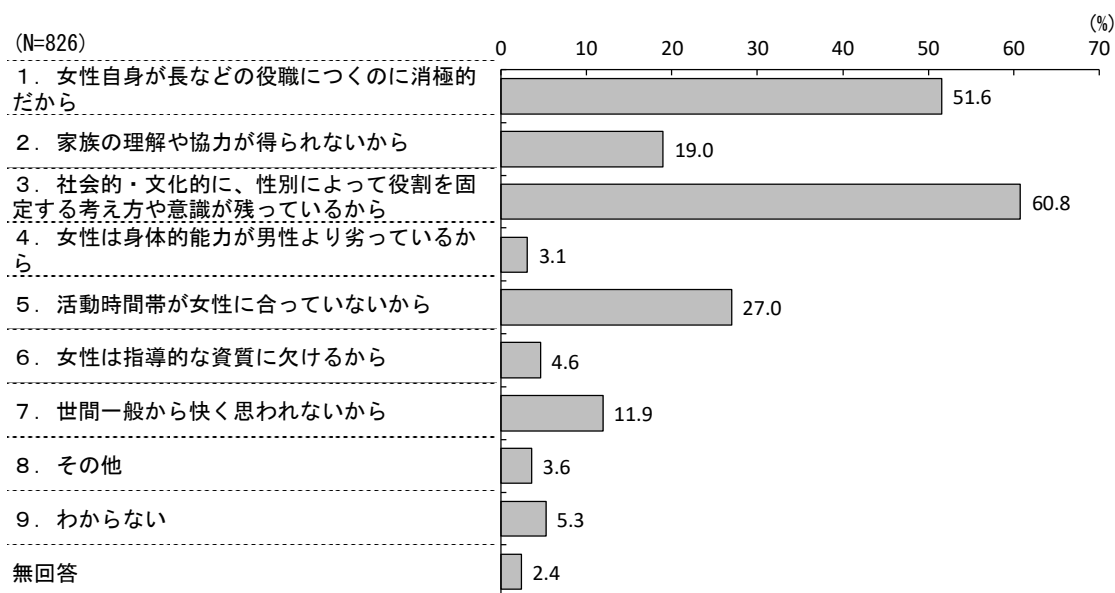
【生活の優先度について理想と現実】



- ◆ 理想は「仕事」、「家庭」をともに優先したい人が多いが、現実では「家庭」を優先している。理想と現実の差が最も大きい項目は、「「仕事」を優先している」である。

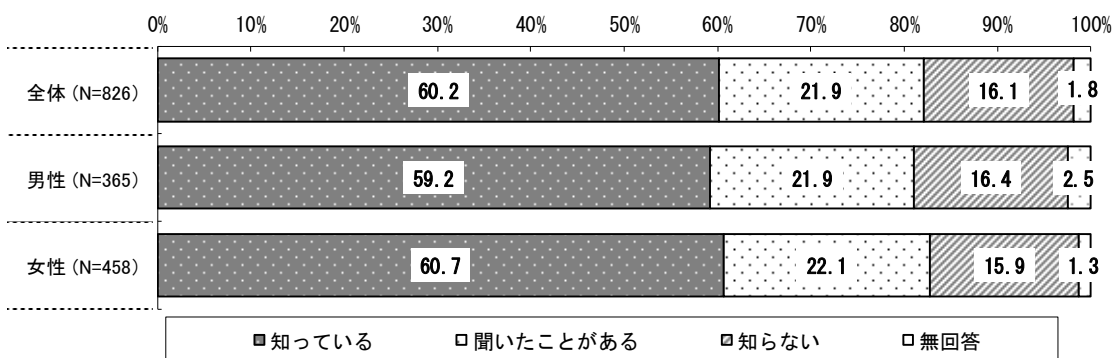
Q14. 地域活動において、女性が自治会の長などの役職につくことが少ないのが現状です。この主な理由は何だと思えますか。

【女性が自治会の長などの役職につくことが少ない理由】



◆ 女性が自治会の長などの役職に就くことが少ない理由は「社会的・文化的に、性別によって役割を固定する考え方や意識が残っているから」、「女性自身が長などの役職につくのに消極的だから」と考える人が多い。

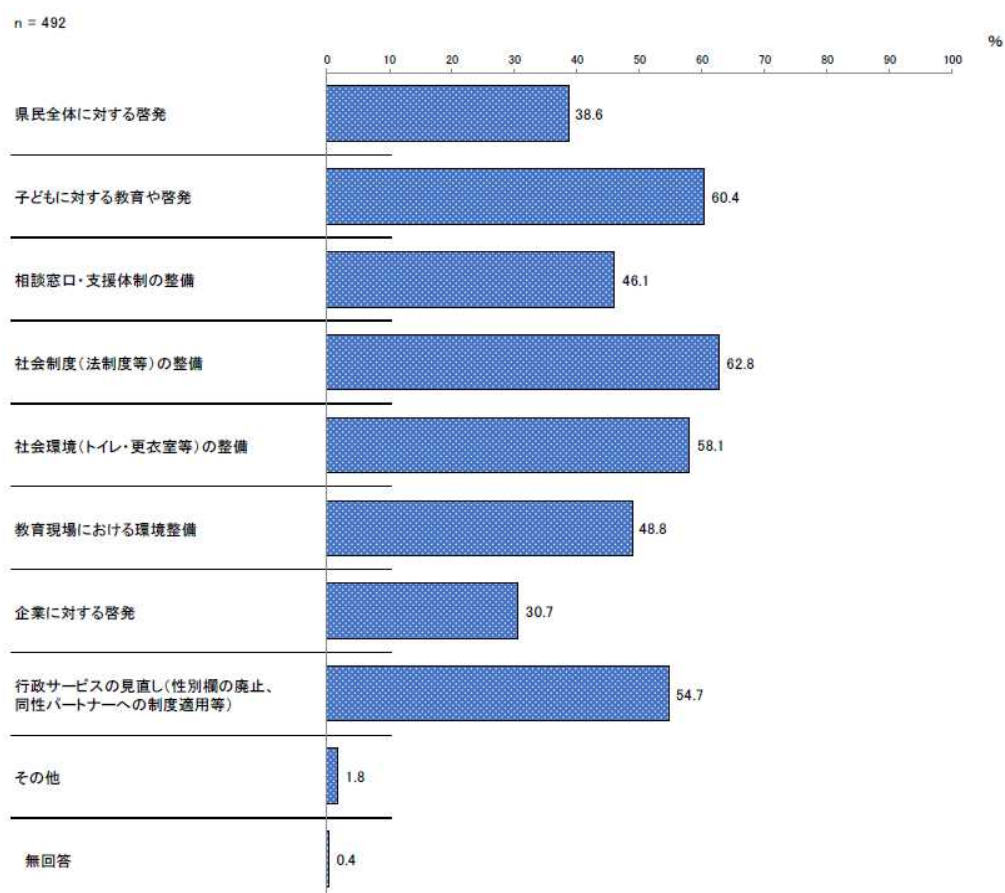
Q15. 「性的マイノリティ（LGBTなどの性的少数者）」という言葉を知っていますか。



◆ 「性的マイノリティ」という言葉を知っている人の割合は、性の多様性理解施策の推進等により、約8割となっている。

全体：82.1% 男性：81.1% 女性：82.8%

Q16. 性的マイノリティの方々に対する偏見や差別をなくし、性的マイノリティの方々が生活しやすくなるためには、どのような対策が必要だと思いますか。（あてはまるもの全てに○）



- ◆ 「社会制度（法制度等）の整備」「子どもに対する教育や啓発」が6割以上となっている。